



消防出初式のはじまり

新春を彩る恒例行事「消防出初式」。いつごろから始まったか知っていますか？

その起源は遠く江戸時代にかのぼります。万治2年（1659年）1月4日、時の老中稲葉伊予守正則が、明暦3年（1657年）の大火で焦土と化した江戸で絶望状態にあった市民を元気づけるために、幕府の火消を率いて、上野東照宮前で「出初」を行って氣勢をあげたことが始まりといわれています。

また、後に結成された「町火消」も、定火消の「出初」にならい、毎年1月に木遣り歌を歌い、はしご乗りなどをそれぞれの組の町内で行っていました。

明治時代になると、町火消以外の江戸消防はすべて廃止となり、町火消もまた「消防組」と名称が改められました。そして明治8年1月4日に、東京警視庁（現在の警視庁）が、東京市内のすべての消防組を集め第1回東京警視庁消防出初式を行いました。これにより明治維新以来中断していた「出初式」が復活し、現在に至ります。松前町でも、町制以前より消防出初式が毎年行われています。



ぜひ、今年の出初式にご来場いただき、350年の歴史に触れてみてはいかがでしょうか。

平成21年

松前町 消防出初式

日時

1月11日（日）

10時10分～

場所

松前公園多目的広場

（雨天時は松前公園体育館）

● 女性消防団の「ちょっといい話」 ● <第29回>

『新年を迎えて・・・松前消防署長に聞く』

団員：署長、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。

ところで署長、消防の仕事に就かれてどれくらいになるんですか？

署長：早いもので35年になります。

団員：わあ～長いですね！ ご苦労様です。これまでいろんな経験をされてきたと思いますが、印象に残っていることは何ですか？

署長：15年ほど前、赤ちゃんが異物を詰まらせて呼吸が止まってしまった救急現場がありました。すかさず異物を除去して人工呼吸と心臓マッサージを実施したところ、自発呼吸が回復し、その後は後遺症もなく退院されたとのことでした。そして2年前、消防署に体験学習に来たある中学生が「坪田さん、あの時は助けていただいてありがとうございました」と言うのです。その時の赤ちゃんでした。これは嬉しかったですね。

立派に成長されていて、涙をこらえるのに必死でした。

団員：感動的なお話ですね！ それにしても最近では自然災害や社会環境の悪化などで心配な事がたくさんありますね。消防に期待される事も多いと思うのですが？

署長：そうですね。東南海・南海地震の発生は一番危惧される場所ですが、救急医療体制に関しても昨今の病院の受け入れ拒否がニュースになり、非常に心配しています。幸い我々の地域では発生していませんが、他人事ではありませんね。今後とも皆さんの信頼と期待に応えられるよう、ハード（装備）・ソフト（隊員の資質）両面の強化を図り、関係機関と連携を密にしなければと思います。今年も職員一丸となって、「安全で安心して暮らせるまち」をめざして努力していきます。